

ギャラリー 大正時代へ小旅行 ～阪神名勝図絵～

『阪神名勝図絵』は1916（大正5）年に、「大阪朝日新聞」にシリーズで掲載された阪神間の彩色木版画です。赤松麟作、永井瓢斎、野田九浦、幡恒春、水島爾保布の5人が30点を競作し、翌1917（大正6）年に金尾文淵堂より木版画集が刊行されました（彫刻：大倉半兵衛、印刷：西村熊吉）。

「大正時代へ小旅行 ～阪神名勝図絵～」では、その全点を紹介いたします。人々でにぎわう《神戸 波止場》や《神戸市場 南京町》、教会の見える《三の宮》などは、今なお国際港都として栄える神戸のハイカラな姿を伝えています。一方、現在は全国有数の住宅街となっている《住吉》や《御影》では、稲の刈り取りに従事する人々や酒蔵の並ぶ中を馬車が進む様子が描かれ、のどかな雰囲気さえ漂っています。

懐かしい空気と新たな発見に満ちたこれらの作品群の中で、100年近い昔となる大正期の阪神間への小旅行をどうぞお楽しみください。



赤松麟作《神戸 波止場》




幡恒春《魚崎》

平成 24(2012)年 6 月 6 日(水)～ 7 月 12 日(木)

休館日：毎週月曜日

開館時間：午前10時～午後5時(金曜日は午後7時まで開館、入館は閉館30分前まで)

 神戸市立博物館 2階ギャラリー

〒650-0034 神戸市中央区京町 24 TEL 078-391-0035

【次回の展覧会案内】 会期：7月14日(土)～9月2日(日)

開館30年記念特別展「国宝桜ヶ丘銅鐸の謎に迫る」

南蛮美術企画展「Meeting with the West! - 西洋と出会った江戸美術 -」

古地図企画展「海と陸の『みち』 - 江戸時代を旅する -」

